

2 専門科目

(共通)

9	農業経営 I	(1年)
10	経営管理	(2年)
11	経営管理演習	(2年)
12	農業政策 I	(1年)
13	農業簿記	(1年)
14	土壌肥料学	(1年)
15	農業基礎演習	(1年)
16	農業機械利用	(1年)
17	農業機械実習	(1年)
18	情報処理演習	(1年)
19	情報処理演習	(2年)
20	GAP・環境保全と有機農業	(1年)
21	スマート農業技術	(2年)
22	海外派遣研修	(2年)
23	農家派遣実習	(1年)
24	卒業論文	(2年)

整理番号： 9

科目名： 農業経営 I

科目群	専門科目	必選区分	必須	単位	1	指導形態	講義
対象学年	1年	課程名	園芸農産課程	専攻名	共通		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							否

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
鈴木 修市	無	元農業高校教員

授業の目的及び内容	農業経営の基礎知識を学び、農業経営に関する生産技術の改善や技術革新に対応すると共に、経済変動や市場動向にも注意を払い、新しい時代の流れに対応できる理論を学習する。
授業の方法	農業の動向と農業経営、農業経営の組織と運営、農業経営と情報、農業経営の診断と設計、農業経営と農業政策を單元ごとに講義形式で行う。
到達目標	新しい時代の流れに対応できる理論を理解し、的確な判断に基づき農業経営を行うことができる。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書	農業経営 I	鈴木正親・杉山邦雄	県立農業大学校			
参考文献						
その他教材	農業の経営と生活 農業経営学50年 現代経営学総論 農業経営概論	七戸長生 磯部秀年 松永美弘 大泉一貫 ほか	農文協 富民協会 関東出版 実教出版			
成績評価の方法・基準	レポート・提出物等による理解度20%、定期試験80%					
試験の有無	定期試験	有	追試験	有	再試験	有

授業計画		
回数	内容	時間
1	1 我が国と世界の農業 2 今後の農業経営と食料生産の方向	2
2	3 持続的農業の進展と有機農産物 4 地球環境問題 5 農業経営の変化	2
3	6 農業経営の組織と運営 7 農業経営の目標 8 農業経営組織の組立 9 農業経営の法人化	2
4	10 農業経営の運営 11 農業経営と情報 12 情報からみた経営活動	2
5	13 情報収集の場所とその活用 14 農業のマーケティング 15 農業団体	2
6	16 農業政策 17 21世紀の農政	2
7	18 農業経営の診断と設計 19 経営診断の基準	2
8	試験	1
合計		15

整理番号： 10

科目名： 経営管理

科目群	専門科目	必選区分	必須	単位	1	指導形態	講義
対象学年	2年	課程名	共通	専攻名	共通		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
鈴木 鉄也	有	研修講師20年

授業の目的及び内容	農業経営者として、基本的な経営管理手法を学ぶ。経営者としての戦略的思考からの経営設計、組織づくり、生鮮・販売の流れを学習し、財務管理を含め経営を体系的に学習する。
授業の方法	講師作成のテキストを使用し座学を中心とした授業方法
到達目標	農業経営者としての素養を養うため、経営に必要な管理技術の基礎を習得する。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書	経営管理講座	担当講師作成				
参考文献						
その他教材						
成績評価の方法・基準	試験（100%）					
試験の有無	定期試験	有	追試験	有	再試験	有

授業計画		
回数	内容	時間
1	経営者の役割 ①経営管理のポイント ②経営目的 ③マネジメントの基礎	2
2	経営戦略 ①経営環境の分析手法 ②事業戦略と成長戦略 ③製品・市場の戦略累計	2
3	経営計画 ①経営計画の種類 ②経営計画の体系 ③経営統制の技法	2
4	経営組織 ①組織の原則 ②組織形態 ③経営組織の活性化	2
5	マーケティング・人事労務管理 ①マーケティング戦略 ②製品戦略 ③価格戦略 ④プロモーション戦略 ⑤チャンネル戦略 ⑥人事管理 ⑥労務管理	2
6	生産管理・品質管理 ①工程管理 ②原価管理 ③品質管理	2
7	財務管理 ①損益計算書 ②貸借対照表 ③財務分析 ④資金管理	2
8	試験	1
9		
合計		15

整理番号： 11

科目名： 経営管理演習

科目群	専門科目	必選区分	必須	単位	1	指導形態	演習
対象学年	2年	課程名	共通		専攻名	共通	
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
鈴木 鉄也	有	農業大学校教育部長
中西 真由美	有	J A愛知研修所職員

授業の目的及び内容	農業経営を行う上で、経営戦略や営農目標のたて方 具体的事例に基づいた営農計画や収支計画の作成 青色申告や農業制度資金について
授業の方法	講義・演習により作成方法を身につける。
到達目標	営農計画、収支計画を作成し財務分析を行い、青色申告の作成ができること。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名
教科書	農業青色申告のすべて14訂版		日本税経研究会
参考文献			
その他教材			
成績評価の試験の有無	出席単位		
	定期試験	無	追試験
			無
			再試験
			無

授業計画		
回数	内容	時間
1	営農計画のたて方と、そのために必要な戦術・戦略・経営理念等について 1 営農計画とその意義 2 経営戦略のポイント	2
2	営農計画の作成（講義：各専攻） 1 営農計画の作成手順 2 基礎資料の準備	2
3	営農計画の作成（演習：各専攻） 1 栽培暦 2 作業体系等の作成	2
4	営農計画の作成（演習：各専攻） 1 生産履歴の作成 2 品質管理	2
5	営農計画の作成（演習：各専攻） 1 資材調達計画の作成 2 労務管理計画の作成	2
6	営農計画の作成（演習：各専攻） 1 生産計画の作成 2 販売計画の作成	2
7	財産台帳の作成（演習：各専攻） 1 固定資産台帳の作成 2 棚卸資産の評価	2
8	収支計画の作成（演習：各専攻） 1 損益計算書の作成 2 貸借対照表の作成	2
9	財務分析（演習：各専攻） 1 収益性分析 2 生産性分析	4
10	青色申告の記帳1 青色申告制度	2
11	青色申告の記帳2 1 決算と所得税 2 青色申告の記帳①	4
12	青色申告の記帳3 青色申告の記帳②	2
13	農業制度資金、就農計画認定及び農業共済 1 農業制度資金 2 就農計画認定 3 農業共済	2
合計		30

整理番号： 12

科目名： 農業政策 I

科目群	専門科目	必選区分	必須	単位	1	指導形態	講義
対象学年	1年	課程名	共通	専攻名	共通		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
金沢 輝芳	有	農業大学校 4年

授業の目的 及び内容	食料・農業・農村基本法制定の背景、理念及び目指している方向性を学ぶとともに、主要な農業政策について学習する。また、国内農業が直面する各種貿易協定、食料安全保障、担い手の高齢化、持続可能な農業等に対する農業政策の方向性についても学習する。
授業の方法	①教科書の記述を、講義形式により学ぶ。 ②毎回、授業の理解度を小テストにより確認する。
到達目標	世界及び日本の食料事情を俯瞰し、日本の食料・農業・農村の維持・発展のために講じられている主要な農業政策について、その根拠と基本的な内容について理解する。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書	農業政策 I	農林水産省ホームページ等から抜粋・編集	自作			
参考文献						
その他教材						
成績評価の方法・基準	評価の要素として、全般的理解度（定期試験）を65%、各項目の理解度（各授業小テスト）を35%とする。					
試験の有無	定期試験	有	追試験	有	再試験	無

授業計画		
回数	内容	時間
1	I 世界及び日本の食料事情と食料安全保障 1 世界及び日本の食料事情、2 食料自給率と食料自給力、3 食料安全保障	2
2	II 食料・農業・農村基本法及び同基本計画 1 食料・農業・農村基本法、2 食料・農業・農村基本計画	2
3	III 農業における規制改革と競争力強化 1 規制改革の背景、2 農林水産業・地域の活力創造プラン	2
4	IV 農業の生産・経営基盤の強化促進 1 農業の生産基盤整備、2 認定農業者制度、3 スマート農業、4 農業の経営基盤強化	2
5	V 主要農畜産物の生産振興 1 経営所得安定対策、2 主要農畜産物の生産振興対策	2
6	VI 農畜産物の高付加価値化、輸出促進及び知的財産保護 1 6次産業化、2 農畜産物の輸出促進、3 地理的表示保護制度（GI）	2
7	VII 農畜産物の貿易協定、持続可能な農業の推進及び愛知県の農政 1 貿易協定、2 日本型直接支払制度、3 みどりの食料システム戦略 4 食と緑が支える県民の豊かな暮らしづくり条例（愛知県）	2
8	試験	1
合計		15

整理番号： 13

科目名： 農業簿記

科目群	専門科目	必選区分	必須	単位	1	指導形態	講義
対象学年	1年	課程名	園芸農産課程	専攻名	共通		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							否

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
青井 孝	無	元商業高校教員

授業の目的及び内容	農業経営者に不可欠な農業簿記を中心に複式簿記の基礎知識を学習し、経営能力の基礎を身に着ける。
授業の方法	教科書を中心に演習帳、補助プリントを使用し学習する。
到達目標	複式簿記の基礎知識を理解する。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書	農業会計	工藤賢資・新井 肇	農文協			
参考文献						
その他教材	農業会計演習帳	工藤賢資・新井 肇	農文協			
成績評価の方法・基準	試験（80％）、プリント等の提出物（10％）、受講姿勢（10％）等を加味し総合的に評価する。					
試験の有無	定期試験	有	追試験	有	再試験	有

授業計画		
回数	内 容	時間
1	①簿記の基本 ②農業簿記の目的	2
2	①資産・負債・資本と貸借対照表	2
3	貸借対照表と損益計算書の関係	2
4	①勘定と元帳 ②取引	2
5	仕訳と転記 ①仕訳帳への記入 ②元帳への転記 ③仕訳帳の締め切り	2
6	伝票による仕訳と転記	2
7	試算表 ①試算表の意味 ②試算表の作成（合計・残高試算表）	2
8	試験	1
9		
合計		15

整理番号： 14

科目名： 土壌肥料学

科目群	専門科目	必選区分	必須	単位	1	指導形態	講義
対象学年	1年	課程名	共通		専攻名	共通	
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
田中俊光	有	農業改良普及課29年経験
丹羽昌二	有	農業総合試験場職員8年経験、農業改良普及課15年経験
落合幾美	有	農業大学校職員3年経験、普及課指導員8年経験

授業の目的及び内容	作物栽培の基盤となる土壌の基礎を理解するために、土壌生成、物理性、化学性、生物性の知識と作目による土壌の差異を習得する。
授業の方法	講師作成のテキストを使用し、最新の情報を付け加えながら座学で行う。
到達目標	作物生産に土壌が大きく関与していることを理解する。土壌を健全に守ることの必要性が理解できる。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書	土壌肥料学	担当講師作成テキスト				
参考文献						
その他教材						
成績評価の方法・基準	試験（100%）					
試験の有無	定期試験	有	追試験	有	再試験	有

授業計画		
回数	内容	時間
1	土壌生成、土壌の構成要素	2
2	土壌中の水、空気、温度と作物生育	2
3	土壌の構成成分、腐植	2
4	肥料成分の吸着・保持と土壌コロイド、塩基交換容量	2
5	土壌の酸度（pH）、電気伝導度（EC）、酸性度の改良	2
6	土壌生物と物質循環	2
7	作目毎の農耕地土壌の特性、土壌劣化	2
8	試験	1
9		
合計		15

整理番号： 15

科目名： 農業基礎演習

科目群	専門科目	必選区分	必須	単位	1	指導形態	演習
対象学年	1年	課程名	共通		専攻名	共通	
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
(講義)鈴木修市、坂口卓司	無	元農業高校教員
(実技・演習)各専攻指導職員	有	農業大学校職員

授業の目的及び内容	農業科目の講義や農業技術の習得に必要な事項など、農業の基礎・基本的な知識・技術を習得する。
授業の方法	講義15時間、実技・演習15時間
到達目標	専門科目の講義や専攻実習に効果的に取り組むことができ、また、より理解を深め専門性を高めることができる。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書	自作資料配布	県立農業大学校	県立農業大学校			
参考文献	農学基礎セミナー		農文協			
その他教材						
成績評価の方法・基準	講義への取組状況・レポート及び提出物等（40%）、理解度確認試験（60%）を加味し、総合的に評価する。					
試験の有無	定期試験	無	追試験	無	再試験	無

授業計画		
回数	内容	時間
1	講義：農業と環境のかかわり、農業における専門用語について	4
2	講義：栽培・飼育の基礎Ⅰ、Ⅱ（植物・動物の性質、栽培・管理の基礎）	4
3	講義：栽培・飼育の基礎Ⅲ、Ⅳ（植物・動物の性質、栽培・管理の基礎）	4
4	講義：病虫害・雑草防除の基礎（農薬の希釈等）、理解度確認試験	3
5	実技・演習：農業の基本技術Ⅰ、Ⅱ（各専攻：農機具の名称と使用方法等）	4
6	実技・演習：農業の基本技術Ⅲ、Ⅳ（各専攻：農機具の安全使用と事故防止）	4
7	実技・演習：農業の基本技術Ⅴ、Ⅵ（各専攻：農業施設と資材）	4
8	実技・演習：農業の基本技術Ⅶ（各専攻：農業施設と資材他）、理解度確認試験	3
9		
合計		30

整理番号： 16

科目名： 農業機械利用

科目群	専門科目	必選区分	必須	単位	1	指導形態	講義
対象学年	1年	課程名	共通		専攻名	共通	
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
藤田 真道	有	農業改良普及課3年

授業の目的及び内容	農業機械の種類、構造、機能、利用の基礎的な知識を習得する。トラクタの構造・整備や操作方法及び安全な作業について重点的に学ぶ。また機械化体系、農作業安全、内燃機関（燃料や潤滑油を含む）、作業機の種類及び利用法を学ぶ。
授業の方法	講義は座学を中心に行い、時にプレゼンテーションを使用する。
到達目標	①農業機械の種類、構造、機能、利用の基礎的な知識を習得すること。 ②トラクタの構造・整備や操作方法及び安全な作業について理解が深まること。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書	農業機械の構造と利用	藍 房和	農山漁村文化協会			
参考文献						
その他教材						
成績評価の方法・基準	出席（20%）、試験（80%）で評価する。					
試験の有無	定期試験	有	追試験	有	再試験	有

授業計画		
回数	内容	時間
1	トラクタの構造・整備	2
2	トラクタの操作と安全作業	2
3	農業機械の利用と農業機械化体系	2
4	農作業安全	2
5	内燃機関及び農業用燃料と潤滑油	2
6	作業機の種類・構造機能及び利用法 1	2
7	作業機の種類・構造機能及び利用法 2	2
8	試験	1
9		
合計		15

整理番号： 17

科目名： 農業機械実習

科目群	専門科目	必選区分	必須	単位	1	指導形態	実習
対象学年	1年	課程名	共通		専攻名	共通	
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
水野 英之	有	農業大学校職員20年経験

授業の目的及び内容	乗用トラクタを中心とした農業機械の基本操作を習得する。
授業の方法	トラクタや刈払機の基本操作や安全な取扱いについて説明した後、実物（トラクタ、ロータリ、刈払機、耕うん機）を使って操作方法を習得する。
到達目標	乗用トラクタの基本操作を習得することができる。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書	農業機械実習テキスト	講師作成	本校			
参考文献						
その他教材						
成績評価の方法・基準	出席率・学習態度（50%）、操作技能（50%）で評価する。					
試験の有無	定期試験	有	追試験	無	再試験	無

授業計画		
回数	内容	時間
1	安全作業のための基本、トラクタの路上走行（基本）	8
2	作業機（ロータリ）の構造と作業手順、ロータリ耕うん①	8
3	ロータリ耕うん②、トラクタの作業後の保守	8
4	刈払機の安全な取扱い、耕うん機の取扱い	8
5	トラクタの路上走行（総合）、燃料等の識別実習、アシストスーツの取扱い	8
6	ロータリの脱着、調整方法	4
7	試験	1
8		
9		
合計		45

整理番号： 18

科目名： 情報処理演習

科目群	専門科目	必選区分	必須	単位	1	指導形態	演習
対象学年	1年	課程名	共通	専攻名	共通		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
樋田 久	有	学識経験者(農業簿記の講師として同校で20年以上の経験)

授業の目的及び内容	パーソナルコンピュータの基本的な使用方法を学習し、農業経営における情報処理方法を習得する。
授業の方法	パーソナルコンピュータと周辺機器の取り扱い、記憶媒体の取り扱い、ワードプロセッサ・表計算ソフトの利用、農業分野でのコンピュータの利用、パワーポイントの利用
到達目標	パーソナルコンピュータの基本的な操作方法及び農業経営における情報処理方法を理解する。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書						
参考文献						
その他教材						
成績評価の方法・基準	出席状況、演習記録レポートの提出、パワーポイントによる発表スライド作成					
試験の有無	定期試験	無	追試験	無	再試験	無

授業計画		
回数	内容	時間
1	1. パソコンの基礎と入力練習 ①ハードウェアとソフトウェア ②パソコンの初歩の操作(起動と終了) ③ワープロソフトについて(ワードプロセッサ) ④文字変換の方法 ⑤文書の入力と保存 2. 入力演習	4
2	1. 操作演習 ①文字書式の設定 ②文書のページ設定 ③複写と移動 ④文書の印刷	4
3	1. ワープロ課題演習	4
4	1. エクセルの基本計画と基本操作 ①基本画面 ②データ入力 ③計算式の入力 ④文字の入力 ⑤ワークシートの保存と印刷 ⑥表の作成 2. 入力演習	4
5	1. エクセルの色々な関数 2. グラフの作成 3. 演習	4
6	1. エクセル課題演習	4
7	1. 論文様式作成演習	4
8	1. パワーポイントによる発表スライド作成	2
合計		30

整理番号： 19

科目名： 情報処理演習

科目群	専門科目	必選区分	必須	単位	1	指導形態	演習
対象学年	2年	課程名	共通	専攻名	共通		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
樋田 久	有	学識経験者(農業簿記の講師として同校で20年以上の経験)

授業の目的及び内容	パーソナルコンピュータの農業簿記ソフトを利用して、複式簿記の記帳方法を習得するとともにインターネット等を利用して情報処理能力を習得する。
授業の方法	複式農業簿記入力、入力結果と経営分析処理、インターネットを活用した情報収集
到達目標	農業簿記ソフトを利用して、複式簿記の記帳方法を習得するとともにインターネット等を利用して情報処理能力を習得する。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書	はじめてのパソコン農業簿記		農業会議所			
参考文献						
その他教材						
成績評価の方法・基準	出席状況、演習記録レポートの提出、パソコン簿記による青色申告作成					
試験の有無	定期試験	無	追試験	無	再試験	無

授業計画		
回数	内容	時間
1	1. 農業簿記の学び方 2. 取引演習 3. 複式簿記記帳の原則 4. 貸し方、借り方記帳演習	4
2	1. 勘定科目の設定 2. 勘定科目分類演習 3. 貸借対照表作成演習 4. 損益計算書演習	4
3	1. 取引の種類と勘定口座への記入 2. 仕訳帳・現金元帳演習 3. 決算での取引 4. その他決算修正項目 5. 減価償却計算演習	4
4	パソコン簿記演習	4
5	パソコン簿記演習	4
6	パソコン簿記演習	4
7	パソコン簿記演習 (青色申告書作成含む)	4
8	パソコン簿記演習 (まとめ)	2
9		
合計		30

整理番号： 20

科目名： G A P ・ 環境保全と有機農業

科目群	専門科目	必選区分	必須	単位	1	指導形態	講義
対象学年	1年	課程名	共通	専攻名	共通		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							否

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
坂口 卓司	無	元農業高校教員
鷹羽 靖夫	有	ヤンマー

授業の目的及び内容	環境保全型農業に取り組む背景を理解し、農業のもつ物質循環機能を生かした減農薬や減化学肥料等の使用による環境負荷の軽減に配慮した持続性の高い生産方式(GAP, IPM他)を推進する環境保全型農業について学習する。
授業の方法	①講義はパワーポイントを使用し、時には討議を行う。 ②配布したテキストは事前に熟読しておく。 ③講義まとめシートを各回配付し、講義終了後に提出する。
到達目標	①地球的規模の環境問題について認識を深める。 ②農業と環境問題とのかかわりを理解する。 ③環境保全への取組(GAP、農業栽培技術等)について理解する。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書	自作資料	県立農業大学校	県立農業大学校			
参考文献	農業と環境保全ハンドブック 西尾道徳の環境保全型農業レポート他	県農業総合試験場 西尾道徳	県農業総合試験場 HP			
その他教材						
成績評価の方法・基準	定期試験(80%)、講義中のまとめシート・受講姿勢(20%)等を加味し、総合的に評価する。					
試験の有無	定期試験	有	追試験	有	再試験	有

授業計画		
回数	内容	時間
1	第1章 地球環境と農業 [地球の環境問題] (①温暖化 ②酸性雨 ③砂漠化および塩類集積 ④熱帯林の破壊 ⑤オゾン層の破壊 ⑥海洋汚染)	2
2	[農業と環境問題] ①農業活動が世界の河川、地下水に及ぼす影響(EU、アメリカ、土壌の塩類化) ②世界における肥料等の使用状況 ③汚染の原因となる施用有機物・肥料の大気への影響 ④土壌中の有機物の分解によるメタンガス、亜酸化窒素の生成と発生	2
3	[我が国および愛知県における農業と環境] ①地下水(農業用井戸)の硝酸汚染 ②日本の地下水汚染 ③家畜ふん尿と環境問題 ④愛知県の河川の汚染	2
4	第2章 環境保全型農業 ①農業と環境 ②環境保全型農業への取組 ③愛知県環境と安全に配慮した農業に関する実施方針	2
5	[環境保全型農業] ④GAP(農業生産工程管理) ⑤SDGs(持続可能な開発目標)	2
6	第3章 環境保全型栽培技術 ①総合的病害虫管理(IPM)(背景、IPMの導入) ②多様な防除技術(生物的・化学的・物理的・耕種的防除) ③環境にやさしい農業(有機農業、特別栽培農産物、有機JAS)	2
7	[環境保全型栽培技術] ④有機農業(有機農業とは、日本の有機農業の現状と課題、取組の拡大、メリット・デメリット)	2
8	試験	1
合計		15

整理番号： 21

科目名： スマート農業技術

科目群	専門科目	必選区分	必須	単位	1	指導形態	講義
対象学年	2年	課程名	共通		専攻名	共通	
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
田中俊光	有	農業大学校教育部農学科科長補佐
石川博司	有	農業総合試験場普及戦略部戦略統括室主任専門員
津田健吾	有	農業総合試験場普及戦略部技術推進室専門員
内藤絵美子	有	農業総合試験場普及戦略部技術推進室専門員
松浦元樹	有	農業総合試験場普及戦略部技術推進室専門員
藤原亜衣	有	農業総合試験場園芸研究部野菜研究室技師
稲垣貴之	有	農業総合試験場作物研究部作物研究室主任
神谷咲月	有	農業総合試験場畜産研究部養牛研究室技師
鷹羽靖夫	有	ヤンマーアグリジャパン株式会社

授業の目的 及び内容	スマート農業の基礎知識を理解する。 スマート農業の現状を理解する。
授業の方法	・プリント等を用いて、講義形式により学ぶ。 ・スマート農業器機の稼働状況等から活用方法等を学ぶ。
到達目標	スマート農業の知識を習得し、その目的・意義・活用方法等を理解する。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書						
参考文献						
その他教材						
成績評価の方法・基準	定期試験（80％）出席状況（10％）、レポート又は小テスト（10％）					
試験の有無	定期試験	有	追試験	有	再試験	無

授業計画		
回数	内容	時間
1	スマート農業の必要性と意義（講師：農業大学校）	2
2	スマート農業技術の実践事例（講師：農業試験場職員） ①土地利用型農業におけるスマート農業の取組について ②施設園芸におけるスマート農業の取組について	2
3	スマート農業技術の実践事例（講師：農業試験場職員） ③病害虫防除におけるスマート農業の取組について ④畜産におけるスマート農業の取組について	2
4	スマート農業の試験研究の取組（講師：農業試験場職員） ①畜産分野におけるスマート農業研究の取組について ②ドローンによる作物の生育診断技術について	2

5	スマート農業の試験研究の取組（講師：農業試験場職員） ①施設園芸における環境制御技術の取組について ②施設園芸における環境データの活用方法について	2
6	①露地野菜作におけるスマート農業機械の活用 ②農業機械と連携した営農支援システムの活用	2
7	①土地利用型におけるスマート農業機械の活用 ②農業機械と連携した営農支援システムの活用	2
8	試験	1
合計		15

整理番号： 22

科目名： 海外派遣研修

科目群	専門科目	必選区分	必須	単位	2	指導形態	演習
対象学年	2年	課程名	共通		専攻名	共通	
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
本校職員	有	農業大学校職員

授業の目的及び内容	外国の文化に接し、農業の事情を直に体験、視察することで国際感覚を高めるとともに広い視野で農業を見つめることのできる感覚を修得する。
授業の方法	1. 海外ファームステイ、2. 海外農業事情視察、3. 実践英会話 4. レポート作成
到達目標	国際感覚を高めるとともに広い視野で農業を見つめることのできる感覚を修得する。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書						
参考文献						
その他教材						
成績評価の方法・基準	事前説明会出席・必要書類提出で40%、課題レポート完成で60%評価					
試験の有無	定期試験	無	追試験	無	再試験	無

授業計画		
回数	内容	時間
1	・オーストラリア(6泊7日) 農業体験・地域農業視察等	60
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
合計		60

整理番号： 23

科目名： 農家派遣実習

科目群	専門科目	必選区分	必須	単位	7	指導形態	実習
対象学年	1年	課程名	共通	専攻名	共通		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
受入指導農家	有	先進的自営農家
各専攻担当職員	有	農業大学校農学科職員(1年以上実務経験職員)

授業の目的及び内容	先進農家等において、より実践的な技術や経営方法を体験し、学校で学んだ知識や技術を深め、学習意欲の向上を図り、将来の営農計画の参考にする。また、農家の人間性や考え方及び地域とのかかわり方を肌で感じ、将来の生活設計の参考にする。
授業の方法	派遣実習
到達目標	農家の人間性や考え方及び地域とのかかわり方を肌で感じ、将来の生活設計の参考にする。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書						
参考文献						
その他教材						
成績評価の方法・基準	別紙評価表による					
試験の有無	定期試験	無	追試験	無	再試験	無

授業計画		
回数	内容	時間
1	第1回事前学生指導会 (農家派遣実習のねらい、意義等を全体説明する。)	2
2	専攻学生指導 (各専攻にて各学生の学習作目、経営方式、生産技術等に関する学生調査カード及び希望調書の作成指導をする。)	
3	事前学生指導・専攻実習(基礎知識・技術の習得を指導する。)	
4	事前学生指導・農業基礎実習 (農業時事、農業数学・化学、社会常識を講義により、指導する。)	
5	第2回事前学生指導会 (実習テーマの設定、心構え等を指導し、派遣先決定までの流れを説明する。)	2
6	コミュニケーション能力向上演習(講師：松本裕花) (農家派遣実習事前学生指導として12時間、合同就職相談会として2時間)	14
7	派遣先候補農家の訪問と受入依頼(派遣先の決定)	
8	第3回事前学生指導会 (学習課題への対応並びに派遣先での生活、コミュニケーション等について指導する。)	2
9	派遣実習開始式(9月17日)	2

10	受入指導農家にて農家派遣実習	302
11	中間訪問（普及課職員に同行し、学習・生活状況を把握し指導する。）	
12	派遣実習終了式（10月26日）	2
13	学生指導（派遣実習の成果、日誌の提出、今後の学習について指導する。）	
14	専攻別報告会（学習成果について専攻別報告会を実施する。）	
合計		326

別紙

農家派遣実習評価表

項目	実習日数	受入農家の所感	学生各種報告書	日誌・報告会	総合調整
評価者	派遣担当	農学科長	グループ班長	専攻担当	教育部長
配点	30	15	15	40	±10

整理番号： 24

科目名： 卒業論文

科目群	専門科目	必選区分	必須	単位	6	指導形態	演習
対象学年	2年	課程名	共通		専攻名	共通	
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
各専攻指導職員	有	農業大学校農学科職員(1年以上実務経験職員)

授業の目的及び内容	1人1課題以上のプロジェクト課題を定めて調査研究を行い、その結果を卒業論文としてまとめ、発表する。
授業の方法	①プロジェクト課題を定めて調査研究し、②卒業論文を作成し、③効果的な発表を行う。
到達目標	卒業論文の作成及び発表。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書						
参考文献						
その他教材						
成績評価の方法・基準	出席率で20%、演習態度、論文完成度、発表内容・方法で80%評価					
試験の有無	定期試験	無	追試験	無	再試験	無

授業計画		
回数	内容	時間
1	卒業論文作成 ・プロジェクト学習の取りまとめ、論文作成	178
2	卒業論文発表	2
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
合計		180